

## 学生による授業評価，満足感と単位修得との関係<sup>1)</sup>

単位不認定の学生は，授業に不満を抱くのか？

牧野 幸志

### **The relationship between student ratings of teaching, satisfaction with the class, and taking-credits.**

### **Are students who failed to take credits dissatisfied with the class ?**

**Koshi Makino**

#### Abstract

The purpose of this study was to investigate the relationship between student ratings of teaching, satisfaction with the class, and taking-credits. Ninety-three undergraduate students answered the questionnaire. The analysis was conducted according to the data (Makino, 2002 a). A 2 (the results of taking-credits: pass, fail) × 2 (announcement of the results : before the announcement, after the announcement) factorial design was used. The student ratings of teaching and satisfaction with the class were dependent variables. The results are as follows : (1) Taking-credits and their announcement to the students have much effect on the student ratings of teaching. Students who failed the class tend to undererate the class after they became aware of the class results. (2) Taking-credits and their announcement to the students of their grades also have much effect on class satisfaction. Students who failed were more dissatisfied with the class than those who passed after they became aware of the class results.

Key words : student ratings of teaching 学生による授業評価, satisfaction with the class 授業への満足感, taking-credits 単位修得, the students who could not take credits 単位不認定の学生.

#### 問 題

大学教育の大衆化が進む中，日本の大学においても，授業評価が頻繁に行なわれるようになってきている（井上，1993；牧野，2001a, b, c, 2002a；松田・三宅・谷村・小嶋，1999；三宅，1999；安岡・高野・成嶋・光澤，1986；安岡・吉川・高野・峯崎・成嶋・光澤・道下・香取，1989a, b）。しかしながら，その一方で，授業を評価する材料として学生による授業評価を疑問視する意見も多く存在する（大槻，1993，住田，1996）。学生による

<sup>1)</sup> 本研究は，平成13年度私学共済補助金「教育・学習方法等の改善支援経費」の援助のもとに行われたものである。

授業評価が問題視される原因には、学生による授業評価の妥当性と信頼性の問題がある。授業への出席回数が少ない学生は、授業を正確に評価することは不可能であるし、学習態度がよくない学生や学生意欲が低い学生が授業を酷評する場合には、その評価の信頼性は低いものとなるであろう。また、成績の悪い学生は、授業を酷評するのではないかという懸念もある。つまり、成績が良くなかった学生は、その原因帰属を授業が良くなかったためとするのではないかという疑問である。

この点について、牧野（2002a）は、学生の試験成績とそのフィードバックにより、授業評価が異なるかを検討した。その結果、授業の総合評価は、試験の高得点者、低得点者によって違いはみられなかった。また、成績をフィードバックしたあとも総合評価に変化はみられなかった。つまり、フィードバック前においてもフィードバック後も成績により授業評価は異ならなかった。成績の悪い学生が授業を酷評する傾向はみられなかったのである。ところが、受講生である学生にとって試験成績以上に重要な問題が存在する。それは、単位が修得できるか否かという問題である。特に、受講している授業が必修科目である場合には卒業に関わるため、単位が修得できたかが重要となってくる。そこで、受講生を単位の修得できた学生と修得できなかった学生とに分類し、単位修得が授業評価に与える影響の検討を行なう。単位修得は学生にとって最重要事項であるため、単位を修得できなかった学生はそのフィードバック後に授業評価を下げると予想される。

さらに、牧野（2002a）は、学生の成績とそのフィードバックが授業への満足度に与える影響を検討した。その結果、授業への満足度は、成績とフィードバックの影響を大きく受けていた。成績の悪い学生は、成績の結果を知った後に満足度が下がっていた。満足感に関しては、単位の修得は、成績の同様、あるいはそれ以上に影響を及ぼすと予想される。単位を修得できなかった学生は、その結果を知った後、授業への満足度が下がると予想される。単位修得が授業への満足感に与える影響についても検討する。

本研究は、単位修得とそのフィードバックが学生による授業評価に影響を与えるのかを検討することを第1の目的とする。また、単位修得とそのフィードバックが学生の授業への満足度に影響を与えるのかを検討することを第2の目的とする。なお、本研究は、牧野（2002a）のデータを再分析したものである。

## 方 法

### 対象授業と被調査者

香川県内の私立T短期大学における平成12年度後期の専門必修科目「社会心理学」（1年生対象）を対象とした。被調査者は、この授業の受講生93名（男性1名、女性92名、平均年齢19.13歳、年齢幅18～20歳）であった。授業は講義形式であり、授業日時は、毎週金曜日3校時（12：50～14：20）であった。クラスサイズは、毎回90名程度であった。担当教員は、男性（教育歴1年6ヶ月）であった。出席はカードリーダーにより管理されており、教員が点呼してとることはなかった。

### 質問紙の構成と単位認定の基準

学生による授業評価 松田他（1999）、牧野（2001a, b）、西浦・牧野（印刷中）を参考に新たに項目を作成した（21項目）。それぞれの評価項目に対して、「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の5段階で評定を求めた（1～5点）。また、その他に総合評価を0～10の11段階で評定してもらった。得点が高いほど評価が高いことを示す。

満足度 授業評価と総合評価を考慮して、この授業への満足度を0～10の11段階で評定してもらった。得点が高いほど対象授業への満足度が高いことを示す。

単位認定の基準 単位の認定は、中間試験と期末試験の合計点により行なわれた。各試験50点満点で合計100点満点であった。2回の試験の合計点が60点以上を単位認定（60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優）、60点未満を単位不認定（不可）とした。出席、授業中の発言などは一切成績評価に考慮しなかった。なお、この基準は、講義の第1回のオリエンテーションで告知されていた。

### 手続き

本研究では、同じ授業評価を2回行なった。第1回は期末試験の直後であり、第2回は試験実施から20日後であり、結果のフィードバックを行なった後である。実施の詳細については、牧野（2002a）を参照していただきたい。

フィードバック前授業評価（第1回） 平成12年12月22日の「社会心理学」の期末試験終了後約15分間を用いて授業評価を行なった。調査は、授業へのアンケートの形式で記名式で行なわれた。実施の際に、授業評価は成績評価に関連しないことを強調した。この授業評価の実施時点では、被調査者は、試験を受け終わっているが結果については知らされ

ていない。

フィードバック後授業評価（第2回）平成13年1月12日の「社会心理学」の授業の際に、期末試験の結果を本人のみにフィードバックした。学生本人から解答用紙提示の依頼があった場合を除き、試験の得点のみを知らせた。得点のフィードバック終了後、授業評価を行なった。2回目の授業評価の実施時点では、被調査者は、既に告知されていた中間試験の結果に加えて、期末試験の結果を知らされ最終的な成績評価を自分自身で知っている状況である。

## 結 果

### 因子分析

学生による授業評価 本研究では、同一の調査用紙を用いた牧野（2002a）の因子分析の結果を利用した。牧野（2002a）では、学生による授業評価（1回目）に関する21項目への因子分析を行ない、4因子を抽出した。それぞれ、教員の態度、親しみやすさなどを評価した「教員評価因子」、授業の内容を評価している「授業内容評価因子」、授業の準備、担当教員が準備をしていたかに関する「授業準備評価因子」、成績の基準を明確にしていたかなどの「成績基準評価因子」であった。それぞれの因子に含まれる項目の平均値を因子得点として算出した（1～5点、得点が高いほど、評価が高いことを示す）。

### 単位認定と学生による授業評価との関係

学生による授業評価が単位の認定・不認定とその通知により異なるかを以下の方法で検討した。分析に先立ち、試験結果を基に、学生を単位認定群（試験60点以上）と不認定群（試験60点未満）に分類した。分析は、単位認定（認定・不認定）×フィードバック（前・後）の2要因分散分析（1 between 1 within）で行なった。従属変数は、総合評価、教員評価、授業内容評価、授業準備評価、成績基準評価、満足度であった。

総合評価 総合評価得点に対して、単位認定とフィードバックの2要因分散分析を行なった。その結果、フィードバックの主効果（ $F=8.98$ ,  $df=1$ ,  $p<.01$ ）と交互作用（ $F=7.89$ ,  $df=1$ ,  $p<.01$ ）が有意であった（Table 1, Figure 1 参照）。フィードバック後、総合評価は下がっていた。特に、単位不認定群では、フィードバック後（ $M=7.06$ ）は、フィードバック前（ $M=7.88$ ）と比べ、総合評価が低下していた。

**教員評価** 教員評価因子得点に対して、2要因分散分析を行なった。その結果、フィードバックの主効果 ( $F=8.11, df=1, p<.01$ ) と交互作用 ( $F=8.67, df=1, p<.01$ ) が有意であった (Table 2 参照)。フィードバック後、教員評価は下がっていた。特に、単位不認定群では、フィードバック前 ( $M=4.14$ ) と比べて、フィードバック後 ( $M=3.82$ ) に教員の評価が低下していた。

**授業内容評価** 授業内容評価因子得点に対して、2要因分散分析を行なった。その結果、フィードバックの主効果 ( $F=4.91, df=1, p<.05$ ) と交互作用 ( $F=9.08, df=1, p<.01$ ) が有意であった (Table 3 参照)。フィードバック後に、授業内容評価は下がっていた。特に、単位不認定群では、フィードバック前 ( $M=4.27$ ) と比べて、フィードバック後 ( $M=4.01$ ) に授業内容の評価が低下していた。

Table 1 単位認定による総合評価の差異

単位修得通知 単位認定 <sup>1)</sup>	フィードバック前 <sup>2)</sup>		フィードバック後 <sup>3)</sup>
単位認定群 $N=75, M=77.18$	7.71	> **	7.68
単位不認定群 $N=17, M=50.24$	7.88	> **	7.06

注1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた。60点以上が単位認定、60点未満が不認定である。

$M$ は各群の平均値を示す。

注2) フィードバック前とは、テスト実施直後の授業評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) フィードバック後とは、試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、0～10点の得点を取りうる。

表中央部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す (\*\*  $p<.01$ )。

表中の数値間の不等号は、その間の交互作用の単純主効果が有意であることを示す (\*\*  $p<.01$ )。

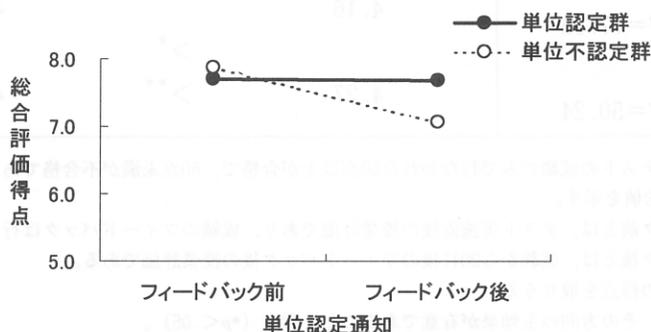


Figure 1. 単位認定による総合評価の差異

授業準備評価 授業準備評価因子得点に対して、2 要因分散分析を行なった。その結果、フィードバックの主効果 ( $F = 15.84, df = 1, p < .01$ ) が有意であった。授業の準備に対する評価は、フィードバック後に低下していた。また、2 要因の交互作用 ( $F = 9.07, df = 1, p < .01$ ) が有意であった (Table 4, Figure 2 参照)。下位検定を行なった結果、単位不認定群において、フィードバック後 ( $M = 4.18$ ) はフィードバック前 ( $M = 4.59$ ) に比べ、授業準備評価がさがっていた。フィードバック後では、単位認定群 ( $M = 4.45$ ) と

Table 2 単位認定による授業評価の差異 (教員評価)

単位修得通知 単位認定 <sup>1)</sup>	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
単位認定群 $N = 76, M = 77.18$	4.06	4.06
単位不認定群 $N = 17, M = 50.24$	4.14	3.82

注 1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が合格で、60点未満が不合格である。

$M$ は各群の平均値を示す。

注 2) フィードバック前とは、テスト実施直後の授業評価であり、成績のフィードバックは行っていない。

注 3) フィードバック後とは、試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中央部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す ( $*p < .05$ )。

表中の数値間の不等号は、その間の交互作用の単純主効果が有意であることを示す ( $**p < .01$ )。

Table 3 単位認定による授業評価の差異 (内容評価)

単位修得通知 単位認定 <sup>1)</sup>	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
単位認定群 $N = 76, M = 77.18$	4.16	4.19
単位不認定群 $N = 17, M = 50.24$	4.27	4.01

注 1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が合格で、60点未満が不合格である。

$M$ は各群の平均値を示す。

注 2) フィードバック前とは、テスト実施直後の授業評価であり、成績のフィードバックは行っていない。

注 3) フィードバック後とは、試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中央部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す ( $*p < .05$ )。

表中の数値間の不等号は、その間の交互作用の単純主効果が有意であることを示す ( $**p < .01$ )。

Table 4 単位認定による授業評価の差異（授業準備評価）

単位認定 <sup>1)</sup>	単位修得通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
単位認定群 N=76, M=77.18		4.50	4.45
			>*
単位不認定群 N=17, M=50.24		4.59	4.18
			>**

注1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が合格で、60点未満が不合格である。

Mは各群の平均値を示す。

注2) フィードバック前とは、テスト実施直後の授業評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) フィードバック後とは、試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中央部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す (\* $p < .05$ )。

表中の数値間の不等号は、その間の交互作用の単純主効果が有意であることを示す (\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ )。

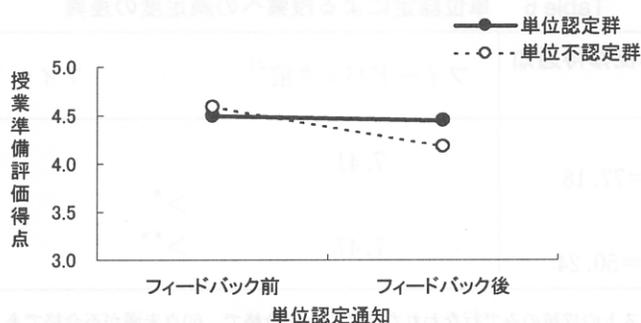


Figure 2. 単位認定による授業準備評価の差異

Table 5 単位認定による授業評価の差異（成績基準評価）

単位認定 <sup>1)</sup>	単位修得通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
単位認定群 N=76, M=77.18		4.54	4.60
			>*
単位不認定群 N=17, M=50.24		4.27	4.20

注1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が合格で、60点未満が不合格である。

Mは各群の平均値を示す。

注2) フィードバック前とは、テスト実施直後の授業評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) フィードバック後とは、試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中央部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す (\* $p < .05$ )。

比べて単位不認定群 ( $M = 4.18$ ) は、授業準備に対する評価が低かった。

成績基準評価 成績基準評価因子得点に対する2要因分散分析を行なった結果、単位認定の主効果が有意であった ( $F = 5.21, df = 1, p < .05$ )。単位認定群 ( $M = 4.57$ ) は、単位不認定群 ( $M = 4.24$ ) よりも成績をつける基準に関する評価が高かった (Table 5 参照)。

授業への満足度 授業への満足度得点に対して、2要因分散分析を行なった。その結果、フィードバックの主効果 ( $F = 6.28, df = 1, p < .05$ ) と交互作用が有意であった ( $F = 12.16, df = 1, p < .01$ )。下位検定の結果、単位不認定群では、フィードバック前 ( $M = 7.47$ ) と比べフィードバック後 ( $M = 6.41$ ) に授業への満足度が下がっていた (Table 6, Figure 3 参照)。また、フィードバック後においては、単位不認定群 ( $M = 6.41$ ) の

Table 6 単位認定による授業への満足度の差異

単位認定 <sup>1)</sup>	単位修得通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
単位認定群 $N = 76, M = 77.18$		7.41	7.59
			> *
単位不認定群 $N = 17, M = 50.24$		7.47	6.41
			> **

注1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が合格で、60点未満が不合格である。

$M$ は各群の平均値を示す。

注2) フィードバック前とは、テスト実施直後の授業評価であり、成績のフィードバックは行っていない。

注3) フィードバック後とは、試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、0～10点の得点を取りうる。

表中央部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す ( $* p < .05$ )。

表中の数値間の不等号は、その間の交互作用の単純主効果が有意であることを示す ( $* p < .05, ** p < .01$ )。

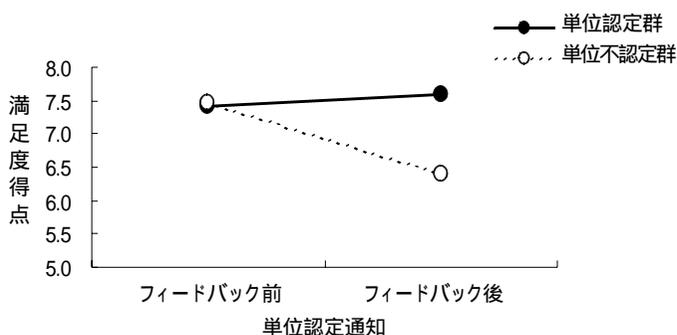


Figure 3 . 単位認定による満足度の差異

方が、単位認定群 ( $M = 7.59$ ) よりも授業への満足度が低かった。

#### 単位認定通知後の授業評価と満足度の変化

被調査者が、単位認定のフィードバック後に授業評価と満足度をフィードバック前の評価よりも、上昇させたか、下降させたか、あるいは変化させなかったかを検討した。第1回目の評価に比べて、フィードバック後の第2回目の評価が高かった場合を上昇、2回とも同じ評価をした場合を変化なし、評価が低かった場合を下降として、その人数を分類した。

**総合評価** 授業への総合評価が、単位修得の結果により変化したかをTable 7 に示した。単位認定群においては、約半分の受講生が総合評価を変えていなかった。また、約25%の受講生の総合評価は下降し、20%の受講生の評価は上昇していた。一方、単位不認定群では、約半分の受講生の総合評価は変化していなかったが、残り半分の総合評価は下がっていた。

**授業への満足度** 授業への満足度が、単位修得の結果により変化したかをTable 8 に示した。単位認定群においては、約半分の受講生の満足度が変化していなかった。また、約25%の受講生の総合評価は上昇し、20%の受講生の満足度は下降していた。一方、単位不認定群では、約40%の受講生の満足度は変化していなかったが、約50%の受講生の満足度は下がっていた。

Table 7 単位認定通知後の総合評価の変化

単位認定 <sup>1)</sup>	総合評価の変化 <sup>2)</sup>		
	下 降	変化なし	上 昇
単位認定群 $N = 76, M = 77.18$	26.3 (20)	54.0 (41)	19.7 (15)
単位不認定群 $N = 17, M = 50.24$	47.1 (8)	47.1 (8)	5.8 (1)

注1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が単位認定で、60点未満が単位不認定である。

$M$ は各群の平均値を示す。

注2) 表内は、%である。( )内は度数(人)である。

## 考 察

本研究の第1の目的は、単位修得とそのフィードバックが学生による授業評価に影響を与えるのかを検討することであった。また、第2の目的は、単位修得とそのフィードバックが学生の授業への満足度に影響を与えるのかを検討することであった。

単位修得とそのフィードバックにより、授業評価が異なるかを検討した。授業の総合評価においては、単位不認定者は、フィードバック後に明らかに総合評価を下げている。つまり、単位が修得できないことが明らかにされた学生は、授業の総合評価を下げている。これは、単位を修得できなかった不満、怒り、不快感から授業を厳しく評価したためと思われる。各授業評価に対する単位修得の影響にも同様の傾向がみられた。教員評価、授業内容評価、授業準備評価において、単位不認定者はフィードバック後に評価を下げている。つまり、単位不認定が確定した後に、評価を下げている。また、成績基準評価は、単位認定者は不認定者よりも高かった。単位認定者は、フィードバック前後いずれにおいても成績評価の基準を高く評価していたが、単位不認定者は成績評価の基準を低く評価していた。単位を認定された（される可能性が高い）学生は、成績をつける基準を最初から高く評価していたが、単位を認定されなかった（されない可能性が高い）学生は最初から成績評価の基準に不満をもっていたため、低く評価していたと思われる。

また、どのくらいの学生が単位認定・不認定の通知後に授業の総合評価を変化させるか、あるいは変化させないのかを調べた。その結果、単位認定者においては、50%の学生が単位認定後も総合評価を第1回目から変化させていなかった。他方、単位不認定者において

Table 8 単位認定通知後の満足度の変化

単位認定 <sup>1)</sup>	総合評価の変化 <sup>2)</sup>		
	下 降	変化なし	上 昇
単位認定群 <i>N</i> = 76, <i>M</i> = 77.18	19.8 (15)	52.6 (40)	27.6 (21)
単位不認定群 <i>N</i> = 17, <i>M</i> = 50.24	52.9 (9)	41.2 (7)	5.9 (1)

注1) 単位認定は、テストの成績のみで行なわれた60点以上が単位認定で、60点未満が単位不認定である。

*M*は各群の平均値を示す。

注2) 表内は、%である。( )内は度数(人)である。

は、50%弱の学生が単位不認定後に授業の総合評価を下げている。つまり、単位が修得できなかった後の評価では、1回目の評価よりも総合評価を下げた学生の割合が高かった。

次に、単位修得とそのフィードバックにより、授業への満足感が異なるかを検討した。授業への満足度においては、単位不認定者は、フィードバック後に明らかに満足度が下がっていた。また、フィードバック後では、単位不認定者は単位認定者に比べ満足度が低かった。つまり、単位が修得できないことが明らかにされた学生は、授業への満足感が下がっていた。これは、単位を修得できなかったことにより、授業への満足感が低下したことを示している。学生が授業に感じる満足感にとって、単位の修得が極めて重要であることがわかる。

また、どのくらいの学生が単位認定・不認定の通知後に授業への満足度を変化させるのか、あるいは変化させないのかを検討した。その結果、単位認定者においては、約50%の学生が単位認定後も満足度が変わらなかった。単位不認定者においては、約40%の学生が単位不認定後も授業への満足度が変わらなかった一方で、約50%の学生が単位不認定後に授業への満足度が下がっていた。これは、単位が修得できなかったことが確定したために、満足度が確定前に比べて下がったと考えられる。単位修得が受講生である学生にとって非常に重要な問題であることがこの点にもあらわれている。

以上のことから、学生による授業評価は、単位の認定により大きな影響を受けることが明らかとなった。牧野（2002a）では、本研究と同様の方法で試験成績による学生による授業評価が異なるかを検討した。その結果、授業評価は成績の高低にほとんど影響を受けていなかった。ところが、本研究では、総合評価、成績基準評価以外の各授業評価因子においても、単位不認定者はフィードバック後に評価を下げている。成績の高低により差は見られなかったが、単位修得は確定後には授業評価を大きく左右していた。このことから、学生にとって単位の修得が最優先事項であることがわかる。そのため、単位を修得できなかった学生はそのことが確定した後は、授業を厳しく評価したのであろう。この傾向は、学生の授業への満足度においては、より如実に現われた。単位不認定者はフィードバック後に満足度が下がっていた。また、フィードバック後においては、単位不認定者は認定者よりも満足度が低かった。このことから、学生が授業に満足するか否かは単位が修得できるかにより大きな影響を受けることがわかる。単位認定のフィードバック後において、単位不認定者は授業評価を変更すること、満足度が下がることから、授業評価の実施は単位認定の通知前に行なう必要があるだろう。

今後の課題は次の2点が挙げられる。1つ目は、学生にとっての単位修得の重要性を検討する必要がある。今回対象とした授業は、必修科目であった。したがって、受講生は単位を修得しなければならないという意欲が高く、単位不認定のフィードバックは非常に大きな意味をもっていた。ところが、一般教養などの選択科目においては、単位を落とすことが受講生にとってそれほど大きな不満とはならないであろう。選択の授業においても、単位修得の影響を調べる必要がある。2つ目は、成績基準評価の再検討である。本研究では、単位確定の前後いずれにおいても、単位が不認定であった学生は、単位が認定された学生よりも成績基準の評価が低かった。つまり、単位を修得できなかった学生は最初から成績判定の基準を低く評価していた。このような結果は、牧野(2002a)においてもみられた。成績の悪かった学生は、良かった学生に比べて最初から成績の基準を低く評価していた。成績の悪い学生、そして、その結果、単位を修得できない学生は成績の判定基準をどのようにとらえているかを知ることが授業評価の改善に役立つであろう。

#### 引用文献

- 井上正明 1993 学生による授業評価の方法論的考察 大学の授業評価に関する実証的研究(8) 福岡教育大学紀要, 42, 277 - 291.
- 牧野幸志 2001a 学生による授業評価と自己評価, 成績, 及び学生の満足感との関係 教養選択科目「社会心理学」の場合 高松大学紀要, 35, 1 - 16.
- 牧野幸志 2001b 学生による授業評価と自己評価, 成績, 及び学生の満足感との関係 専門必修科目「人間関係論」の場合 高松大学紀要, 35, 17 - 31.
- 牧野幸志 2001c 学生による授業評価の規定因の検討(1) 多変量解析を用いた因果モデルの検討 高松大学紀要, 36, 55 - 66.
- 牧野幸志 2002a 学生による授業評価, 満足感と成績との関係 成績の悪い学生は本当に授業を酷評するのか? 高松大学紀要, 38, 印刷中.
- 松田文子・三宅幹子・谷村 亮・小嶋佳子 1999 学生による授業評価と自己評価, 授業選択態度, 及び成績の関係 教職必修科目「生徒指導論」の場合 広島大学教育学部紀要 第一部(心理学), 48, 121 - 130.
- 三宅幹子 1999 大学生における授業選択態度のタイプと授業評価, 自己評価, 及び成績の関係 広島大学教育学部紀要 第一部(心理学), 48, 141 - 148.
- 西浦和樹・牧野幸志 2002 教師の実践的力量向上のための授業改善の試み 学生による授業評価の要因分析 日本教育工学会誌, 印刷中.
- 大槻 博 1993 多摩大学の学生による授業評価「ボイス」をめぐる考察 一般教育学会誌, 15, 47 - 49.
- 住田幸次郎 1996 学生による「授業評価」に関する数量的分析 ノートルダム女子大学研究紀要, 26, 23 - 40.
- 安岡高志・高野二郎・成嶋 弘・光澤舜明 1986 学生による講義評価 一般教育学会誌, 8, 46

- 59.

- 安岡高志・吉川政夫・高野二郎・峯崎俊哉・成嶋 弘・光澤舜明・道下忠行・香取草之助 1989a  
学生による講義評価 学生の質と講義評価の関係について 一般教育学会誌, 11, 56 - 59.
- 安岡高志・吉川政夫・高野二郎・峯崎俊哉・成嶋 弘・光澤舜明・道下忠行・香取草之助 1989b  
学生による講義評価 成績と講義評価の関係 一般教育学会誌, 11, 99 - 102.

高松大学紀要

第 38 号

平成14年 9月25日 印刷

平成14年 9月28日 発行

編集発行 高松大学  
高松短期大学  
〒761-0194 高松市春日町960番地  
TEL (087) 841 - 3255  
FAX (087) 841 - 3064

印刷 株式会社 美巧社  
高松市多賀町 1 - 8 - 10  
TEL (087) 833 - 5811